
【新入所員紹介】

中国語学科 劉 巖 外国人特任助教

神奈川県外国語学部外国人特任助教の劉巖（リュウヒョウ）と申します。現在、主に「言語学」と「第二言語習得」という2つの分野の研究に取り組んでいます。言語学に関しては、これまで談話文法の立場から指示・照応現象を中心に、日本語、中国語及び英語を対象言語として理論的な対照研究をしてきました。いまは歴史語

用論の観点から中国語指示詞の歴史の変遷の解明を目指しつつ、古代日本語との通時的な対照研究の可能性を探っています。第二言語習得の研究については、2015年度に日本語母語話者の中国語文法習得における問題点を解決するため、「京都大学中国語学習者コーパス」の構築を完成しました。現在は中国語教育の難点とされる機能語の習得研究を中心に行い、学習者の習得状況に基づいた教育文法の構築と効果的な教授法の実現を目指しています。

【新入所員紹介】

国際文化交流学科 鈴木 祐一 助教

2015・16年度に、日本学術振興会の科学研究費助成事業（研究活動スタート支援）の支援により、どのように効果的に外国語学習の間隔を調整できるかを調べている。同時に、個人の特徴（適性）に合った学習間隔も特定するために、実証研究を行っている。外国語教室で外国語学習に使える時間は限られており、練習時間は変えずに、練習の間隔の空け方を変えるだけで、外国語の習得

を促進することはできるのだろうか。例えば、1日開けて繰り返し練習するのと（集中学習）、7日間空ける（分散学習）のでは、どちらの方が文法知識の定着が促進されるのだろうか。更に、記憶や言語分析の得意・不得意（適性）という個人差要因によって、最も効果的な練習間隔の空け方が変わる可能性がある。以上の問題意識から、分散・集中学習と適性の役割を同時に調べるために実験を行い、外国語学習のメカニズムの解明、そして外国語教育に役立つ情報を得ることを目標としている。
